

地域公共交通に関する課題（未定稿）

■ 館山市の公共交通を取り巻く現状

【地域特性】

- ・人口は、減少傾向にあるが、世帯数においては増加傾向にある。それに従い世帯人員は減少している。
- ・通勤・通学での流入・流出は、隣接する南房総市が最も多い。
- ・館山市の公共・公益施設は、中心市街地である館山・北条地区に多く分布している。学校や子育て支援施設、地域コミュニティ施設などは、各地区に1箇所程度立地している以外はほとんど見られない。
- ・大型商業施設・医療施設は、郊外への立地が増え、館山駅周辺の空洞化が進んでいる。
- ・館山夕日桟橋では、毎年2月、3月に東京と伊豆大島を結ぶ高速ジェット船が運航されるほか、客船にっぽん丸などの停泊、おがさわら丸の寄港など、海上交通やクルーズ船の誘致に力を入れ、「渚の駅」たてやまとともに、観光振興の一翼を担っている。

【公共交通の現状】

- ・市内の公共交通は、鉄道、路線バス、高速バス、タクシーのほか、公共交通を補完するものとして、スクールバス、一部の病院における患者送迎バスがある。
- ・鉄道は、北部から東部にかけて走っているJR内房線に館山駅、那古船形駅、九重駅の3駅があるが利用者は減少傾向にある。
- ・路線バスは、館山日東バス、JRバス関東が運行している。市内を走る路線バスは、年々利用者が減少している。また、平成29年から、JRバス関東の崎線において、「おどや館山海岸店」及び「渚の駅たてやま」に停車する「ショッピングライナー」（2往復）が新設されたほか、平成30年5月から、同路線において、夜間の帰宅の足を確保するため、22時館山駅発の「フライデーバス」の実証運行が開始された。

■ 地域住民ニーズ

【市民アンケート調査】

- ・70歳以上の約4割が自動車運転免許証を持っていないか、返納済である。
- ・約7割の市民が運転免許証を保有し、約8割の市民が自家用車を保有していることから、自家用車への依存傾向が強いといえる。
- ・最も多い外出行動は、「買物」、次いで「通勤」であり、その際の利用交通手段として「自家用車を自分で運転」が最も多い。
- ・普段の移動について「困ることはない」と回答している割合が約8割である一方で、「困ることがある」と回答している方は約1割存在している。
- ・路線バス利用者を利用すると回答した人は、全体の4分の1程度である。

【公共交通利用者アンケート調査】

- ・路線バス利用者特性として、60歳代～80歳代以上が半数以上を占めており、主に「通院」「買物」目的で利用している。また、割合は15%程度だが、通学の足としても利用されており、主に高齢者と学生の重要な交通手段となっている。
- ・広域移動手段の比較では、同一の所要時間、運賃だった場合、目的地までの移動手段に高速バスを選択する方が73.3%と高い割合だが、満足度については不満の傾向にあり、中でも「運行本数」「運行時間帯」は不満度が高い。
- ・鉄道駅利用者特性として、「学生」の利用が最も多く、次いで「会社員・公務員」となっている。利用頻度も週に5日以上がほとんど、通勤通学の足として重要な役割を担っている。

【観光客アンケート調査】

- ・観光客の約半数をファミリー層が占めている。利便性向上策として鉄道、バスの増便が支持されている。公共交通が利用しやすくなった際の転換可能性について、「利用したいと思う」が53.1%となっており、観光交通の重要性が示唆された。

【高校生アンケート調査】

- ・普段の登下校時の交通手段では「自転車」利用が約55%と最も多いが、雨の日の登下校時の交通手段になると「家族や知人の車で送迎」が普段の約37%から約67%まで増加する。鉄道で通学している生徒は全体の4割弱、路線バス通学者は全体の約1割である。

■ 地区別座談会

【座談会総括】

- ・地域ごとに、状況や課題が抱えている問題が異なることから、地域の事情を考慮し、ニーズを捉えていくことが求められている。
- ・館山バイパス（商業施設が多数立地するほか、館山病院や館山警察署もバイパスへ移転予定）へのバス路線の新設を望む声が多い。
- ・既存のバス路線は、通院や買物のニーズに合っていないという声が多い。
- ・地域の助け合いにより、住民が主体的に関わり移動困難者の移動手段を提供する地域も存在する。
- ・鉄道（JR内房線）については、駅への利用者駐車場設置を望む声などがあつた。
- ・タクシーについては、運賃が高くなかなか利用できない、館山中央交通廃業後、すぐに来なくなったなどの声があつた。

■ 上位・関連計画

【第4次館山市総合計画】（H27）

【館山市都市計画マスタープラン】（H21）

【館山市総合戦略 館山市人口ビジョン】（H27）

【館山市総合戦略 館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略】（H27）

【観光立市たてやま行動計画】（H17）

【地域の魅力アップモデル事業】（H16）

地域公共交通の課題

課題1

まちづくりや観光振興との連携による公共交通の活性化

課題2

地域の実情に合わせた公共交通対策の取り組み

課題3

過度な自家用車利用の抑制と利用促進による公共交通の維持

課題4

将来の自家用車の運転に不安を抱えている高齢者の足の確保

課題5

周辺隣接自治体との連携による広域的かつ一体的な公共交通ネットワークの確保

■ 事業者の現状

【交通事業者アンケート調査】

- ・事業者が抱える課題には、乗務員の不足が挙げられている。

【集客施設事業者アンケート調査】

- ・南房総市からの来院者もいるので他の市町村との連携もできるとよい
- ・移動や買い物で足腰が疲れてしまうので、ダイレクトに結ぶ仕組みが必要